

2. 教育の内容・方法・成果

(3) 成果等

【概要】

本会計大学院では、授業科目毎の学生の学修状況と評価を授業評価アンケートならびに成績表に基づいて、セメスターごとに、領域・系列別教員分科会やカリキュラム検討委員会あるいは研究科委員会にて継続的に検討するとともに、学位の授与状況や進路状況は事務局にて調査・蓄積しており、適宜、研究科委員会の場で検討している。

研究科委員会にて検討を踏まえ、本会計大学院の使命・目的に照らし合わせて、教育課程の改善ならびに教育内容や方法の改善はFD委員会とカリキュラム検討委員会ならびに領域・系列別教員分科会の連携のもと、継続的に検討を行っている。

項目	評価の視点	レベル	
2-52	収容定員や在籍学生数に応じて、学位授与が適切に行われているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、収容定員や在籍学生数に応じて、学位授与を適切に行っている。具体的には、以下の通りである。

本会計大学院では、2007年3月に第1期の修了生17名、2008年3月に第2期の修了生31名(うち第1期入学生1名含む)の合計48名の修了生を輩出している。第1期生の入学者数は22名であるので、標準修業年限での学位授与状況は、約77%であり、第2期生の入学者数は37名であるので、標準修業年限での学位授与状況は81%である。学位が授与されていないものの内訳は、長期履修学生、修了延期生、休学者1名及び退学者などである。

学位授与にあたっては、学則上定められた基準と方法に従い、2年次以上に在学し修了を予定している者について、毎年度3月上旬の研究科委員会にて修了認定を行い、修了の可否について学生に個別に通知している。

<根拠資料>

- ・資料1-1: LEC 東京リーガルマインド大学大学院学則
- ・資料2-4: LEC 東京リーガルマインド大学大学院 学位規則

項目	評価の視点	レベル	
2-53	学位の授与状況等を調査・検討する体制は整備されているか。また、その調査・検討結果の学内や社会への公表が定期的かつ継続的に実施されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、学位の授与状況等の調査・検討を行う体制やその調査・検討結果の学内や社会への公表状況については、以下の通り実施している。

本会計大学院では、学位授与状況等は研究科委員会やカリキュラム検討委員会にて継続的に検討されている。学位授与数ならびに修了者の進路は本会計大学院パンフレット、ホームページにて公表している。

今後も修了生の集積に応じ、当該年度の学位授与数、標準修業年限での学位授与状況等を継続的に調査するとともにその結果を検討し、ホームページ等を通じて公表していく。

<根拠資料>

- ・資料1-3：LEC 会計大学院パンフレット
- ・LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 在院生の声 / LEC 会計大学院生プロフィール」

http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/student/pdf/student_profile.pdf

項目	評価の視点	レベル	
2-54	修了者の進路を把握する体制が整備されているか。また、その学内や社会への公表が、定期的かつ継続的に実施されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、修了者の進路を把握する体制、また、その学内や社会への公表については、以下の通り実施している。

本会計大学院では、学生には進路決定時に本会計大学院所定の進路決定届を事務局に提出するよう指導している。また、その情報は、大学院パンフレットおよびホームページ等に掲載している。また、修了生の進路等を調査・把握する事務は学生部にて行っている。

<根拠資料>

- ・資料2-15：進路決定届
- ・資料1-3：LEC 会計大学院パンフレット
- ・LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 在院生の声 / LEC 会計大学院生

プロフィール」

http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/student/pdf/student_profile.pdf

項目	評価の視点	レベル	
2-55	修了者の進路先等における評価や活躍状況の把握を行う体制が整備されているか。また、その学内や社会への公表が定期的かつ継続的に実施されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、修了者の進路先等における評価や活躍状況を把握するための体制、また、その学内や社会への公表は、以下の通り実施している。

本会計大学院修了生が各種国家資格を受験した場合、その受験状況については、個別の調査などで結果を定期的かつ継続的に把握している。また、その結果は、必要に応じて学内および学外への公表を行っている。

また、修了後就職した者や社会人学生で修了後引き続き仕事に従事する者については、進路は適宜調査し把握している。

<根拠資料>

- ・資料1-3：LEC 会計大学院パンフレット
- ・資料2-15：進路決定届
- ・LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 在院生の声 / LEC 会計大学院生プロフィール」

http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/student/pdf/student_profile.pdf

項目	評価の視点	レベル	
2-56	使命・目的および教育目標に即した教育効果について評価する仕組みが整備されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、使命・目的および教育目標に即した教育効果について評価する仕組みを整備している。具体的には、以下の通りである。

本会計大学院では、使命・目的および教育目標に即した教育効果については、FD 委員会、領域・系列別教員分科会とカリキュラム検討委員会を有機的に関連させて検討し、研究科委員会において検討・評価する仕組みを整備している。

なお、これらの取組みの成果として、2 - 50 にて既述の通り、2007 年度から「ビジネス・シミュレーション」科目を新設し、2008 年度においては、カリキュラム検討委員会での検証および研究科委員会の審議を経て、2009 年度から同科目名称を「マネジメント・シミュレーション」に改めると同時に、教育効果の高さを鑑み、「マネジメント・シミュレーション」を必修科目とすることとした。本会計大学院の特徴ある取組みのさらなる改善が図られている。

< 根拠資料 >

- ・ 資料 1 - 3 : LEC 会計大学院パンフレット
- ・ LEC 会計大学院ホームページ「教育プログラム / カリキュラム」

<http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/program/curriculum/index.html>

- ・ LEC 会計大学院ホームページ「教員・研究活動 / FD 活動」

http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/research_activities/fd/index.html

項目	評価の視点	レベル	
2-57	使命・目的および教育目標に即した修了者を輩出しているか。		

< 現状の説明 >

本会計大学院においては、使命・目的および教育目標に即した修了者の輩出を行っている。具体的には、以下の通りである。

本会計大学院では、2 - 52 に既述の通り、現在 48 名の修了生を輩出している。そのうち、半数以上は企業、公的機関等の現職において本会計大学院にて修得した知識を活かした業務に就いている。また、その他の修了生については、金融機関等への就職や公認会計士や税理士といった高度の専門知識を有する専門職に就いているなどといった状況である。

< 根拠資料 >

- ・ 資料 1 - 1 : LEC 東京リーガルマインド大学大学院学則
- ・ 資料 1 - 3 : LEC 会計大学院パンフレット
- ・ 資料 2 - 4 : LEC 東京リーガルマインド大学大学院 学位規則
- ・ LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 在院生の声 / LEC 会計大学院生プロフィール」

http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/student/pdf/student_profile.pdf

項目	評価の視点	レベル	
2-58	教育効果を評価する指標や基準の開発に取り組んでいるか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、教育効果を評価する指標や基準の開発については、以下の通りとなっている。

教育効果の測定には、修了生の学修到達度、修了生の就職先による修了生の能力評価等を指標とすることが考えられる。今後修了生の集積を待ち、適切に指標や基準の開発に取り組んでいく。

項目	評価の視点	レベル	
2-59	教育効果の評価結果を組織的に教育内容・方法の改善につなげる仕組みが整備されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院における教育効果の評価結果を組織的に教育内容・方法の改善につなげる仕組みの整備状況については、以下の通りである。

本会計大学院では、教育内容・方法の改善については、FD委員会の主導のもと領域・系列別教員分科会とカリキュラム検討委員会が有機的に関連して検討を重ね、研究科委員会にて審議している。今後修了生の集積に応じ、教育効果の評価の基準を開発し、この基準に則った評価結果を、組織的に教育内容・方法の改善につなげる仕組みを整備することを検討していく。

【点検・評価】

(1) 修了者の進路先等における評価や活躍状況の把握を行う体制について

本会計大学院修了生が各種国家資格を受験した場合、その受験状況については、個別の調査などで結果を定期的かつ継続的に把握しているが、公認会計士、税理士、米国公認会計士その他資格合格者、ならびに企業・団体等において会計実務に携わる社会人を主たる学生像として想定し、現に在学生の半数以上が現職を有する社会人であることを鑑みると、今後は、本会計大学院の教育の成果として、学生の進路のみならず、実務での具体的な活躍状況を継続して把握していくための体制作りを検討していくことが課題であるとする。

(2) 教育効果を評価する指標や基準の開発について

本会計大学院においては、教育効果を評価する指標や基準の開発には現状取り組んでいない。今後は、修了生の集積を待ち、適切に指標や基準の開発に取り組んで行くことが必要であるとする。

【今後の方策】

(1) 修了者の進路先等における評価や活躍状況の把握を行う体制について

(2) 教育効果を評価する指標や基準の開発について

<(1)・(2)共通>

修了後就職した者や社会人学生で修了後引き続き仕事をしている者についての実務での具体的な活躍状況の把握については、例えば定期的にアンケートを実施するなどして、進路調査と併せて行っていく。

また、教育効果の評価の指標については、修了生の人数が48名(2008年10月1日現在)とまだ少ない現状であるので、修了生の集積を待ち、検討を行っていく。